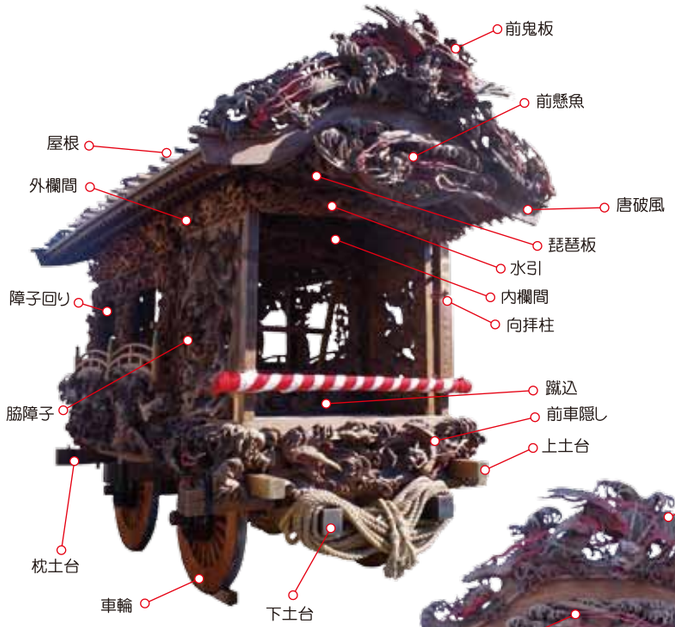
鹿沼の彫刻屋台解説

鹿沼の屋台は、全面が「豪壮な彫刻」と「緻密な彫刻」で飾られている点や骨組みの部分に筋交い等を有しない構造に特徴があり、二百年の時の流れを経て、現在に至っている彫刻屋台が数多く存在しています。

この地域は、例弊使街道と日光西街道の宿場町であったことから、日光山の彫刻師が冬、仕事が無く下山し、あるいは、日光の帰り道に宿場や村の依頼により造ったものであるという伝承があります。

構造は、単層館型で四つ車、屋根は唐破風つきで、周囲に彫り物が嵌め込まれています。内部は、内室と芸場の二室からなり、内室には囃子方が入り、側面に障子を入れ、高欄を後ろに回し、芸場側面に両面彫りの脇障子を入れ、屋根は唐破風つきで、棟は箱棟となっています。屋台の大きさは巾１０尺・奥行き１２尺・高さ１２尺が標準です。



鹿沼彫刻屋台製作年表

年　号	西暦	保有町
文化年間	1804	下横町
文化9年	1812	石橋町
文化10年	1813	久保町
文化11年	1814	銀座1丁目
文政11年	1828	上材木町
文政11年	1828	戸張町
天保年間	1830	中田町
天保3年	1832	下材木町
天保7年	1836	仲町
安政3年	1856	麻苧町
安政4年	1857	銀座2丁目
文久2年	1862	下田町
江戸期	年代不詳	天神町
明治15年	1882	末廣町
大正6年	1917	御成橋町
昭和3年	1928	寺町
昭和28年	1953	上田町
昭和29年	1954	朝日町
昭和30年	1955	蓬莱町
昭和30年	1955	鳥居跡町
昭和33年	1958	文化橋町
昭和57年	1982	東末広町
昭和58年	1983	上野町
昭和63年	1988	府所町
平成2年	1990	府中町
平成5年	1993	府所本町
平成8年	1996	泉町

繰り込み

「今宮神社祭の屋台行事」
彫刻屋台繰り込み 繰り出し

祭りの最大の見所は・・・「繰り込み」。

江戸の末期より祭りの主流は「彫刻屋台」に移行し、見せ場は今宮神社への屋台繰り込みとなりました。

祭一日目、町内を曳き廻された屋台は、祭りの中心に位置する「今宮神社」へ集結。

参道の道幅に合わせ製作された屋台が民家の軒下すれすれに曳かれる様は、若衆の運行技術の高度さをもの語っています。

幟旗まで進み、繰り込みの時を待つ時間は、氏子が待ちに待った瞬間でもあり、自慢の「絢爛豪華」「勇壮優美」な屋台と時空を共有する瞬でもあります。

いよいよ繰り込み。

この日のために準備を重ねてきた當番町の合図により繰り込み開始。

神社の大太鼓が神職により、打ち鳴らされ、囃子は五段囃子に切り替わり、若衆・囃子方の緊張は頂点達します。

屋台は大鳥居をくぐり境内へ。

本殿に正対し囃子を奉納。

この場面が囃子方の一年間の練習成果を披露。

境内に全ての屋台が勢ぞろいした様は圧巻。

神社では、「奉告祭」が執行されます。

日没には囃子が入り、提灯に火がともり、「繰り出し」が始まります。

漆黒の闇の中、提灯の灯りに浮かび上がる彫刻屋台は見るものを魅了します。

繰り出し

手打ち式